

編集後記

青森県立保健大学 雑誌編集委員長

田崎 博一

雑誌第6巻1号と2号をお届けする。

平成17年4月より大学院博士後期課程がスタートする。開学6年を経て、学部、博士前期課程（修士課程）および後期課程という本学の基本的な学生教育体制が完成することになる。加えて、日本看護協会より「認定看護師（救急看護）」と「認定看護管理者・セカンドレベル」の教育機関指定を受け平成17年6月に開講予定である。医療保健福祉分野専門職の教育・研修・研究の拠点として新たなスタートを切ることになる。このような状況に合わせて、学内の組織・体制の見直しを行い、雑誌編集・刊行は健康科学研究センター所掌で行うこととなった。本学としての研究開発推進事業の一環として総合的な視野で雑誌編集が行われることになる。国際的にも通用するような研究の推進、地域の諸課題解決に資する研究、若手研究者の育成、専門職者の資質向上、産学・産学官連携、外部資金の獲得等々、本学の研究開発事業に関する課題は盛りだくさんである。雑誌もこれらの課題実現のためのメディアとして活用されることになるだろう。

第1号には平成16年9月17日に開催された第2回学術研究集会の抄録を載せてある。学術研究集会は本学教職員はもちろんのこと、県内の保健医療福祉および環境関連の専門職者の研究発表、学術交流の場となることを目的に開催されている。国内外に多くの専門学会があり、研究者としてそれらの学会で研究成果を公表することはもちろん重要であるが、地域独自の問題や課題をめぐって地域の研究者、専門職者等が参集し、発表や議論を行うことのできる場としてこの研究集会は意義があると考えられる。さらに、本雑誌にその抄録を掲載することにより、学術集会の成果を全国に情報発信することも可能になる。今後、学術研究集会が充実・発展し青森県の保健医療福祉および環境領域の問題解決において役割を果たすことができればと念じるものである。